

宝蔵館嫡々庵のこと 課題と将来について

著者	遠藤 ゆかり
雑誌名	鶴見大学仏教文化研究所紀要
号	22
ページ	31-34
発行年	2017-03
URL	http://doi.org/10.24791/00000322



宝蔵館嫡々庵のこと—課題と将来について—

大本山總持寺宝蔵館嫡々庵 学芸員兼寺務員 遠藤ゆかり

大本山總持寺宝蔵館の遠藤でございます。尾崎先生に引き続きまして、總持寺宝蔵館の現状についてお話をさせていただきます。よろしくお願致します。

今年、大本山總持寺では開祖瑩山紹瑾禪師と二祖峨山韶碩禪師の大遠忌を記念して、「禪の心と私たち總持寺の至宝」と題して、展覧会を開催しています。すでに三月十九日から二十一日に總持寺の仏殿で旗揚げ展、四月二十三日から五月二十九日鎌倉国宝館に於いて鎌倉展が終了しており、後は十月十五日と十一月二十七日名古屋博物館で開催される名古屋展のみとなりました。そういったこともあり、今回は本シンポジウムで曹洞宗の文化財を取り上げていただきました。總持寺に所蔵されている文化財を中心に話しするべきかもしれませんが、この度は、總持寺の文化財の紹介ではなく、文化財に関わる業務についてお話させていただきます。

講演資料の十二ページをご覧ください。こちらにそって進めてまいります。はじめに、「宝蔵館嫡々庵について」とありますが、現在の宝蔵館の情報をまとめてあります。役割としては、宝蔵館は總持寺の一部署で、總持寺所蔵の文化財を保存・管理、調査研究など、文化財に関わる業務を行っております。収蔵資料の特徴は大きく二つに分けることができます。一つは總持寺が草創以来伝えてきた伝世の文化財、もう一つは總持寺が横浜鶴見に移転した明治末年以後、檀信徒や後援者から寄進された近代蒐集の文化財です。施設情報として、現在の開館状況を記しておりますが、お寺付属の施設としてはあまりに開館日が少ないと思われた方がほとんどではないかと思えます。この開館状況

については、詳しくは次の「現在の問題点」でお話させていただきます。

早速「現在の問題点」に移らせていただきます。まず①設備の老朽化としておりますが、宝蔵館は昭和四十九年に建てられたので、平成三十六年には築五十年になり、建物全体の老朽化が問題になってきています。特に空調設備のパワー不足に悩まされており、業務用の除湿器や加湿器、サーキュレータなどを使って補っている状況です。展示ケースなどの備品も開館当初のもので、高さが足りず、展示できる資料に限られ、照明の工夫も難しく、満足のいく展示ができておりません。収蔵庫は狭く収蔵量は限界です。これらは宝蔵館の職員のほうで、工夫をして何とか補っています。しかしながら、先ほど触れた開館状況については、宝蔵館自身の構造上の問題で、職員の努力だけでは解決できない部分なのです。宝蔵館は展示室・事務室・作業場所がすべて一つとなっています。そのため、毎日開館をしておりますと、事務、収蔵庫整理や調査ができなくなってしまうです。宝蔵館職員は開館中、受付業務も行いますので、開館中は他の業務がほとんどできません。また、収蔵庫には資料を広げられる場所はなく、展示室まで運ばなくてはなりません。開館、通常業務（事務）、収蔵庫整理や調査を並行して行うため、開館日を土曜日・日曜日・祝日と特定の行事中に限定することになりました。平日の開館日に事務や資料の整理などをする時間を確保するため、やむを得ず、このような開館状況となりました。②の所蔵資料の状態についての説明にもなりますが、未整理の資料や修復が必要な資料もたくさんありますので、それらを把握し、今後展示に活かしていければと思っております。

次に③立地・知名度となっておりますが、立地というのは總持寺境内の宝蔵館の位置のことです。總持寺の境内は東西で大きく二つに分けることができます。東側は総受付や売店などがあり總持寺の玄関です。またお寺の事務所がある建物があり、お寺の運営を行う建物が集中しています。西側は僧堂など修行をする建物を中心となっていて、一般の方の立ち入りは原則禁止されています。宝蔵館は西側に位置しており、参拝のお客様には分かりづらいところにあります。總持寺の内部を見学できる諸堂拝観というものがありますが、このルートにも組み込まれておりません。

開館日が少なすぎるといふことも原因ですが、本来ならば東側にあるべき施設だと思っております。

立地に続いて知名度とありますが、總持寺が曹洞宗の本山であることがほとんど知られていないといふことです。永平寺と道元禪師についてはご存じでも、總持寺と瑩山禪師についてはほとんど知られていないというのが実態ではないでしょうか。宝蔵館の受付業務の際にご質問をいただくことがあります。ほとんどが永平寺と總持寺の關係のことで、曹洞宗には二つの本山があるということをはとんどの方が知らないのだと実感しております。平成二十三年、能登から鶴見に移転して二〇〇年の節目ということで、「總持寺名宝二〇〇選」という展覧会を神奈川県立歴史博物館で行いました。また今年行われております「禅の心とかたち 總持寺に至宝」、それぞれの展覧会の会場に足を運びましたが、同じようなご質問をいただきました。永平寺と總持寺どちらにも共通していえることです。が、他宗に比べて展覧会等を行つたがなく、曹洞宗について、永平寺や總持寺について、ほとんど知つていただく機会がなかったように思います。展覧会だけが手段ではありませんが、曹洞宗全体がもっと積極的に情報発信をしていくことが必要ではないかと思ひます。

さて、ここまで色々問題点が出てまいりましたが、それらを改善するためにはどうしたらよいか、次の「今後に向けて」でお話をさせていただきます。①施設の再整備ですが、空調設備や展示ケースの新調などが考えられますが、どうしても費用の面ですぐには取りかかれませんが、そのため、現在積立をしております。最終的にいくら積み立てるのか、どこを改修するのかなど、具体的なことは今後決めていく予定です。②収蔵資料の充実としていますが、状態の良い資料については、調査を進めていけばすぐに展示をすることができますが、資料の修復、新しい資料の購入となりますと、設備と同様に予算の問題が出てきます。資料の修復費は今のところ毎年出ておりますので、修復計画にそつて修復しています。これからも少しずつですが、展示できる資料を増やしていくよう努めていきたいと思ひています。③の広報については、年4回の展示替えを行うたびポスター等を掲示するということはすでに行つており

ます。しかし、これだけでは寺内で活動しているだけにすぎません。總持寺のこと、總持寺の文化財を知ってもらおうために、今後は定期的に展覧会を開いていけないかと考えております。本山に来ていただくのを待つだけではなく、寺外に出て積極的に活動することも大事ではないかと思っております。実現には少々時間がかかるかもしれませんが、すぐに取り組めるものとしては、今後はお寺の一施設であることをもっと活かしていきたいと考えております。今まではお寺の一部署ではありますが、博物館施設としての活動を重視してまいりました。これからは文化財展示にとどまらず、總持寺の伽藍のこと、修行のこと、法要のこと、法具のことなど、お寺ならではの要素というものを加えていき、公立の博物館等とは異なった魅力を引き出していければと思っております。

ご清聴ありがとうございました。